



季節を知ったら

暮らしが楽しくなった

〈第十六号〉

立秋

八月八日



庚申さん

暦の上では秋ですが、暑さはまだまだ続きます。

八月、各地で夏祭りが真っ盛りです。子ども頃の思い出といえば、盛大なお祭りよりもむしろ、地元のこぢんまりとしたお祭りの方ではないでしょうか。

宇治館町には小高い丘に「庚申さん」がまつられています。冬には寒参りも行われていますが、かつてはお盆の十五日に「こうしんさん」と呼ばれる（地元ではこうじんさんとも）お祭りがありました。

十五日の夜になると石段を上ってお参りに行くのが館町の人々の慣わしで、福引や映画の野外上映がありました。子どもたちは真夏の楽しみにしていました。

このとき、「生き人形」という出し物があったと古老に教えてもらいました。新橋から「庚申さん」へ行くまでの道中、民家の格子戸のむこうに、女形が座っているのだそうです。女形は歌舞伎で、女の役をする男役者のこと。館町では青年団が女形に扮しました。顔には白粉を塗って厚化粧を施し、あてやかな着物をまとい、しなを作っています。それを友人たちが盛んに笑わそうとするのだそうです。衣装は家人から借りたか、それとも花街の古市から本格的なものを借りたのか、歌舞伎役者さながらであったそうです。女形にはやはり男前が選ばれたらしく、「あそこのおじいちゃんは生き人形をした」とそれは誇らしげに言われたそうです。どことなく祇園祭の屏風飾をほうふつとさせます。

宇治では毎年八月二十一日が氏神さんの宇治神社の例祭です。これが地元の夏祭りになります。観光客が去った夜、内宮前の境内には提灯が灯され、一家でお参りする人々が集うのです。

文 千種清美

